



京都紋付

会社概要

黒染めの技術と共に歩み続けて90年

大正四年創業以来黒一筋に生き、黒染めとはいかにあるべきかを追求してきました。私共は常に現状の品質に満足しないで、黒染めとはお客様にとってどうあるべきか、いいかえれば、もし私共が黒紋付を着るならば、どういった紋付を着たいかという事を真剣に考えてきました。テーマは「本物志向」です。売らんがための企画、見てくれだけの紋付ではなくお客様に来ていただいて本当に喜んで頂ける紋付、黒染めの本物とはどうあるべきかということです。

私共が考えた”真の本物”とは

染色に関してメーカーが永久保証できる紋付

地球環境を考えたエコロジー染料の使用

雨、炎天下においても色落ち、ヤケ等をしないで通常の着用条件に

しっかり耐えることの出来る紋付

以上の条件をクリアした商品であるが故に私共は半永久的にメンテナンスサービスを提供できるのです。そして最後に社員一同、心を込めて大切に染めさせて頂きます。

沿革

大正4年

初代荒川金之助によって荒川染工場として現在の地に開業。

昭和44年

2代目荒川忠夫により株式会社京都紋付を設立。

昭和53年

黒染業界において画期的な濃色染めを考案「純黒」として発表。黒染業界初の濃色染めを世に送り出した。当時、同業他社には想像もつかないほどの黒で、他社の染色技術ではとうてい実現不可能であった。これにより、「技術の京都紋付」としての評価を確立した。

昭和56年

大ヒット商品である「深泥黒」を完成。黒染シェア60%の現在を築く足がかりとなる。

平成元年

昭和天皇大嘗祭における装束「小忌衣」製作の御下命を請け賜り、京都岩清水八幡宮に自生している山藍を使用して、古来より伝わる染色技術により再現製作する。

平成8年

黒染業界においてまだ未開発であった、エコロジー染料を開発し、地球にやさしく、品質においても画期的な「黒染革命」という染色技術を完成。一步先を考えた染色技術、着用時における品質を重視した本物企画として世に送り出す。

平成8年

4代目として現在社長 荒川 徹 が就任。

平成13年

京都のアパレル業者の依頼を受け、洋装素材に伝統の黒染め技術を活かした黒染めの研究開発を開始。約半年後、洋装業界では他に例を見ない深い色合いの黒染めを開発。「深黒」と命名、「御黒染司」の商標を登録。京都のアパレル業者がそれを企画製品化し販売している。

株式会社 京都紋付

〒604-8823 京都市中京区壬生松原町51-1
TEL 075-315-2961 FAX 075-326-1277